



第15話 リッピーの誕生日

編集 青木 亮二 監理 野中 理恵

あれ? リッピーたち3人はなにやら おしゃれな格好で登場です。リッピーは素敵なナボレオハットをかぶり、プータンは中世のお姫様風ドレス、なぜか、おにいさんは執事の格好。

3人が、そんないでたちで歩いているのは、フランスの首都パリの中心、シャンゼリゼ通り。

凱旋門からルーヴル美術館までのびるこの通りには、たくさんのフィギュアやカフェ、レストランが建ち並びます。せっかくだから、おしゃれをして歩きたい! というおにいさんの提案で、そんな格好をしているのでした。

「ねえ、みんな見てよ!」周囲のパリ子たちも、3人の姿をゆすしにうに見えています。「でも、少し楽しいかも」プータンはまんざらでもないようです。「パリといえばカフェ、ちやうど入ってみようか」歩き疲れたのがかわいたので、3人は通りのカフェに入ることにしました。

出てきたのは、エスプレッソとフレンチでよく飲まれる、とても濃いコーヒー。そのままだと苦くて飲めないよ。ちやうど待つて

おにいさんは、3つのカップに小さい角砂糖をいくつか入れます。ほくは大人だからこれくらいかな。リッピーはそれよりちやうど甘いほうがいいね。

プータンはさらにこれくらいかな。砂糖を入れたエスプレッソは、3人にとちやうどいい加減。苦すぎず、甘すぎずで、リッピー、プータンは大満足。

「すてっおしいね、これなら飲めるや」ふふ、少し大人になった気分ね」でも、たのおいしいだけで終わらないのが3人の旅。「これで問題だ」とおにいさん。

「この3人のエスプレッソ、ほくは角砂糖をいくつ入れたでしょう? 次のヒントをもとに考えてもらえ」

ひと休みのはずのコーヒータ임が謎解きタイムになってしまいました。

「ねえ、みんな見てよ!」周囲のパリ子たちも、3人の姿をゆすしにうに見えています。「でも、少し楽しいかも」プータンはまんざらでもないようです。「パリといえばカフェ、ちやうど入ってみようか」歩き疲れたのがかわいたので、3人は通りのカフェに入ることにしました。

出てきたのは、エスプレッソとフレンチでよく飲まれる、とても濃いコーヒー。そのままだと苦くて飲めないよ。ちやうど待つて

おにいさんは、3つのカップに小さい角砂糖をいくつか入れます。ほくは大人だからこれくらいかな。リッピーはそれよりちやうど甘いほうがいいね。

プータンはさらにこれくらいかな。砂糖を入れたエスプレッソは、3人にとちやうどいい加減。苦すぎず、甘すぎずで、リッピー、プータンは大満足。

「すてっおしいね、これなら飲めるや」ふふ、少し大人になった気分ね」でも、たのおいしいだけで終わらないのが3人の旅。「これで問題だ」とおにいさん。

「この3人のエスプレッソ、ほくは角砂糖をいくつ入れたでしょう? 次のヒントをもとに考えてもらえ」

ひと休みのはずのコーヒータ임が謎解きタイムになってしまいました。

「ねえ、みんな見てよ!」周囲のパリ子たちも、3人の姿をゆすしにうに見えています。「でも、少し楽しいかも」プータンはまんざらでもないようです。「パリといえばカフェ、ちやうど入ってみようか」歩き疲れたのがかわいたので、3人は通りのカフェに入ることにしました。

出てきたのは、エスプレッソとフレンチでよく飲まれる、とても濃いコーヒー。そのままだと苦くて飲めないよ。ちやうど待つて

おにいさんは、3つのカップに小さい角砂糖をいくつか入れます。ほくは大人だからこれくらいかな。リッピーはそれよりちやうど甘いほうがいいね。

プータンはさらにこれくらいかな。砂糖を入れたエスプレッソは、3人にとちやうどいい加減。苦すぎず、甘すぎずで、リッピー、プータンは大満足。

「すてっおしいね、これなら飲めるや」ふふ、少し大人になった気分ね」でも、たのおいしいだけで終わらないのが3人の旅。「これで問題だ」とおにいさん。

「この3人のエスプレッソ、ほくは角砂糖をいくつ入れたでしょう? 次のヒントをもとに考えてもらえ」

ひと休みのはずのコーヒータ임が謎解きタイムになってしまいました。

あれ? リッピーたち3人はなにやら おしゃれな格好で登場です。リッピーは素敵なナボレオハットをかぶり、プータンは中世のお姫様風ドレス、なぜか、おにいさんは執事の格好。

3人が、そんないでたちで歩いているのは、フランスの首都パリの中心、シャンゼリゼ通り。

凱旋門からルーヴル美術館までのびるこの通りには、たくさんのフィギュアやカフェ、レストランが建ち並びます。せっかくだから、おしゃれをして歩きたい! というおにいさんの提案で、そんな格好をしているのでした。

「ねえ、みんな見てよ!」周囲のパリ子たちも、3人の姿をゆすしにうに見えています。「でも、少し楽しいかも」プータンはまんざらでもないようです。「パリといえばカフェ、ちやうど入ってみようか」歩き疲れたのがかわいたので、3人は通りのカフェに入ることにしました。

出てきたのは、エスプレッソとフレンチでよく飲まれる、とても濃いコーヒー。そのままだと苦くて飲めないよ。ちやうど待つて

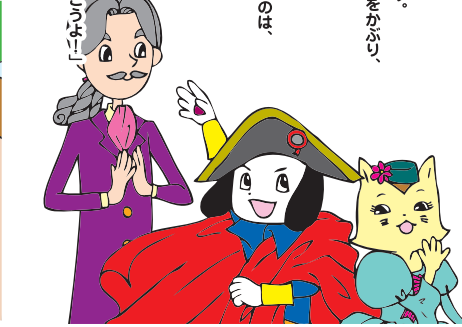
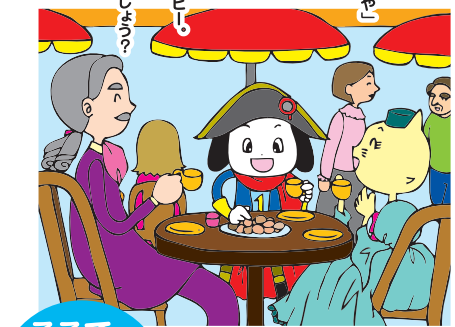
おにいさんは、3つのカップに小さい角砂糖をいくつか入れます。ほくは大人だからこれくらいかな。リッピーはそれよりちやうど甘いほうがいいね。

プータンはさらにこれくらいかな。砂糖を入れたエスプレッソは、3人にとちやうどいい加減。苦すぎず、甘すぎずで、リッピー、プータンは大満足。

「すてっおしいね、これなら飲めるや」ふふ、少し大人になった気分ね」でも、たのおいしいだけで終わらないのが3人の旅。「これで問題だ」とおにいさん。

「この3人のエスプレッソ、ほくは角砂糖をいくつ入れたでしょう? 次のヒントをもとに考えてもらえ」

ひと休みのはずのコーヒータ임が謎解きタイムになってしまいました。



ここで問題!



角砂糖はあわせていくつ入ってる?

「さう12個で正解。と、うん、12個!」

「リッピーはきもちよくしています。12歳のお誕生日、おめでとう!」プータンがいます。

「おいさんとプータンから、クミッカードのお祝いつきです。すっかり忘れてたや、覚えてくれたんだ。これ、こんな格好しようってここにしたんだね」

「かっこよかったわよ」とプータンがにやかにいます。

あれあれ、まわりのパリ子まで、リッピーに祝福の拍手をおこしてくれます。

次回はいスライスに行くよ!

- 分かってること
- おにいさんとプータンのエスプレッソを合わせてよくかき混ぜると、リッピーにとって飲みやすい甘さになる。
 - リッピーとプータンのエスプレッソを合わせてよくかき混ぜると、おにいさんのエスプレッソの甘さの1.5倍になる。

1 からわかることは、ほくのエスプレッソの甘さは、プータンとおにいさんのエスプレッソの甘さの平均だ、ってこと。

2 からわかることも含めて、線分図で表すと、こんな感じかしら?

じゃあ△を1と計算すると

だから、3人の角砂糖の個数の比は6:8:10、つまり3:4:5

もともと角砂糖は20個しかなかったわけだから……

6個、8個、10個じゃ砂糖が足りなくなっちゃうので、3個、4個、5個で、あわせて12個だっ!

中学入試問題にアタック!

Q 赤と青の割合が1:4であるペンキが500gと、赤と青の割合が3:2であるペンキが400gあります。このとき、次の問いに答えてください。

(1) 2種類のペンキを全て混ぜ合わせると、赤と青の割合が何のペンキになりますか。

(2) 2種類のペンキを混ぜ合わせて、赤と青の割合が1:2であるペンキをつくるとき、最も多く何gのペンキがつかれますか。(2006年 新潟県立海城中)

解答

(1) 計900gのうち、赤のペンキの占める量は、 $500 \times \frac{1}{1+4} + 400 \times \frac{3}{3+2} = 100 + 240 = 340$ (g)です。したがって、赤と青の割合は340:(900-340)=340:560簡単にして17:28となります。

(2) Aのペンキの、赤の濃度は $\frac{1}{5}$ 、Bのペンキの、赤の濃度は $\frac{3}{5}$ です。したがってAを1g、Bをxg混ぜて、赤の濃度が $\frac{1}{3}$ となるように

のように面積図をかいて、この面積が

と同意になるようにすればよく、②と③の面積が等しいことから、 $\frac{1}{5} \times 1 = \frac{4}{5} \times x$ より、 $x = \frac{1}{4}$ とわかるので、A:B=2:1の割合で混ぜると、赤の濃度が $\frac{1}{3}$ の、つまり赤と青の割合が1:2のペンキが400gつきます。Aを全部つかうと、A500g、B250gで計750g、Bを全部つかうと、Aは800g必要となり、不足してしまいます。なるべく多くペンキをつくらせると、A、Bの少なくとも一方は全部つかうことになるので、最も多くて750gのペンキがつかれることになりました。

750g